

自治的コミュニティの形成に向けて

都市における近隣自治の仕組み

都市問題会議2007

2007.10.25

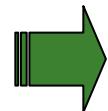
安田睦子

1. 地域コミュニティ

■ 地域コミュニティ～ある地域において営まれる共同生活

<社会的特徴>

- 社会的類似性
- 共通する社会的觀念
- 共通の慣習
- 共通の感情



一定の地域

一定の地域人々が生活することによって、共同感情が生まれ、共通の特徴が認められるところ

地域社会 = コミュニティの訳語

(コミュニティ～地域において、目標とされる社会連帯を意味する理念的概念)

都市における近隣関係

- プライバシーを守りたい
- 近所の人間関係に一定の距離を置きたい
- あいさつ程度ですませたい
- 日常のゴミ処理に必要な範囲の付き合い
- 「向こう三軒両隣」とは言うけれど。。。
- 付き合いはマンション管理人だけでいい
- 旧い体質の伝統的な自治会のやり方は、好まない
- 義務的な負担は、できるだけ避けたい



地域コミュニティへの帰属性、共通感情、連帯感が薄い



地域コミュニティの形成～住民が帰属意識に気づき、共通感情が生まれる
体験を経験し、連帯感を高めていくプロセス

事例;幌西福祉のまち推進センター活性化対策 (通称ふれあいセンター)

(札幌市)

地域特性

人口:約2万人

世帯:9700

高齢化率15.9

町内会:17

平均年齢:41.3歳

福祉のまちづくり推進事業:

幅広い市民の福祉活動への参加により、地域ぐるみで互いに支え合う環境を整え、だれもが安心して暮せる地域社会をつくることを目的に平成7年より始められた。(福まちセンター)

基本目標 地域住民の日常的な支えあい
ボランティアによる福祉サービス

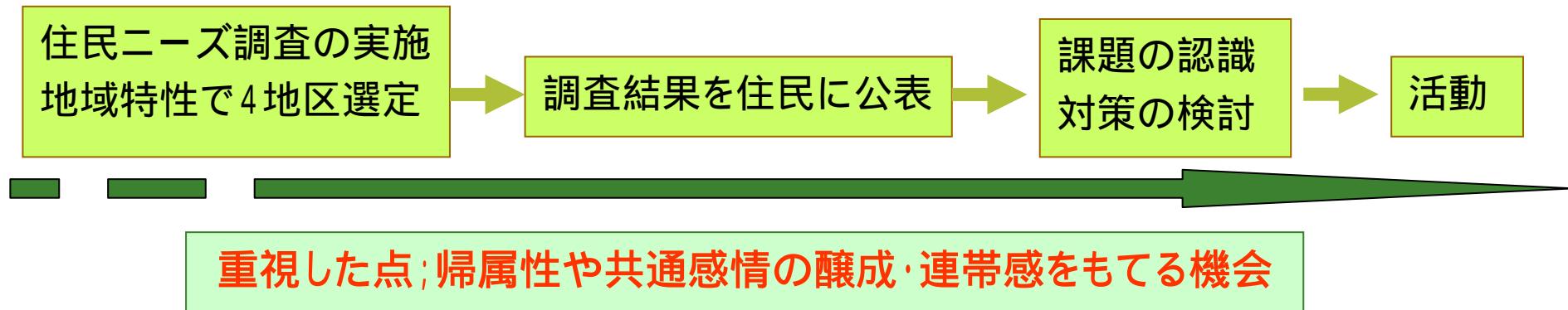
《ふれあいセンターの課題》

地区センターを拠点にし、推進員が常駐して、行事や研修会の開催、相談などの活動をしているが、住民にあまり知られていなく、地区ニーズに対応できているとは言えない。

《地域の課題》

古くからの戸建とマンションが混在し、子育て世代が増えている。一方で、急速に高齢化が進んでいる地区もある。転出入者の多い地区もあり、近隣の付き合いは薄れている。

地域コミュニティ再生への取り組みの流れ



既存組織の活性化

- ・構成員の意識向上
- ・目的、活動内容の再認識
- ・地域課題への共通理解
- ・参加体験を通じて、自立的な活動、組織への改革

地域課題の把握と共通感情の醸成

- ・参加できるニーズ調査
- ・調査結果の住民公表ws
- ・調査結果の他団体への公表ws・各町内会回覧

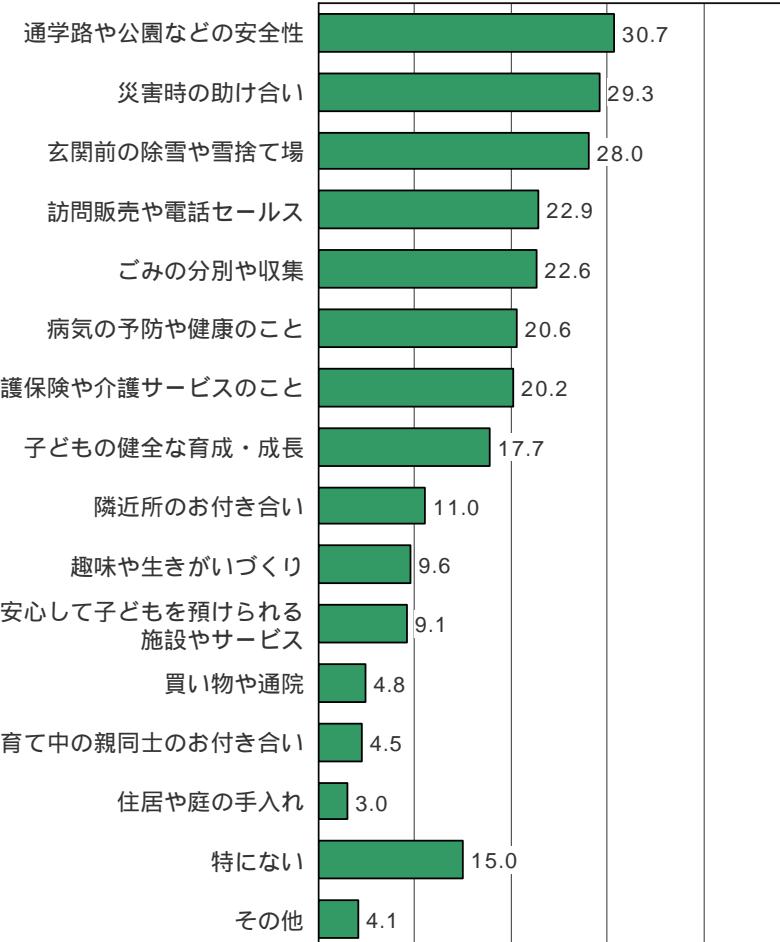
連帯感と自主的解決への取組(自治的機能)

- ・課題対策の検討
- ・自主的な解決策
- ・次年度活動計画
- ・行政情報・人材の活用

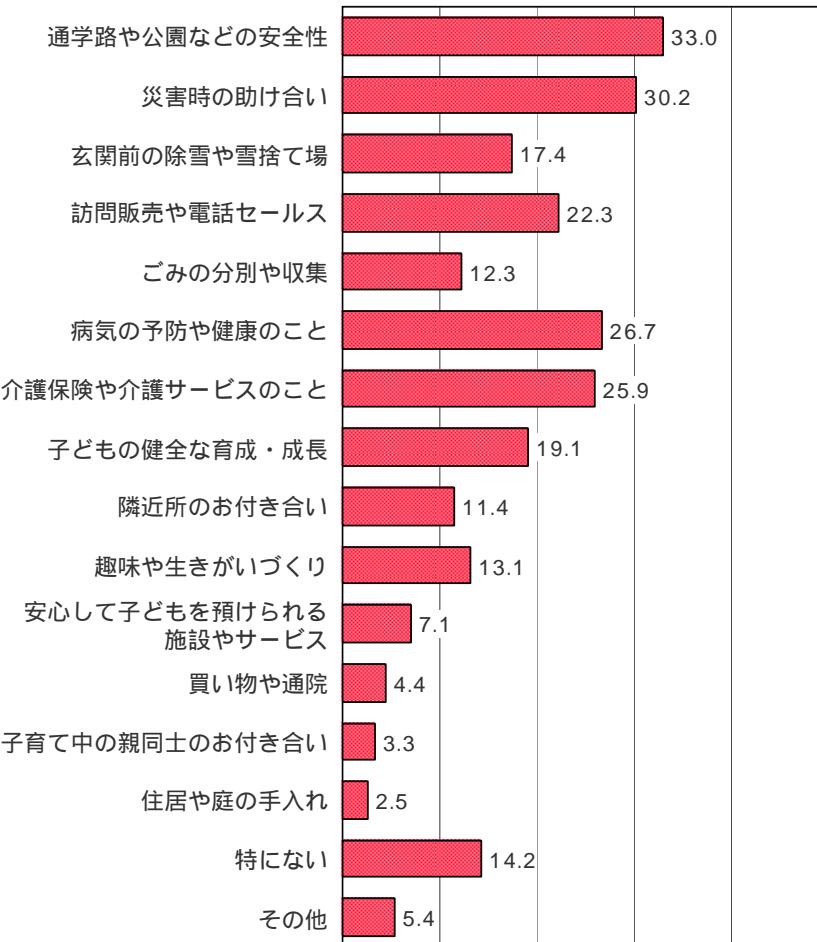
幌西地区で暮らしていて、日頃心配していることや困っていること

ニーズ調査より

幌西地区 n=820



15分区 n=367

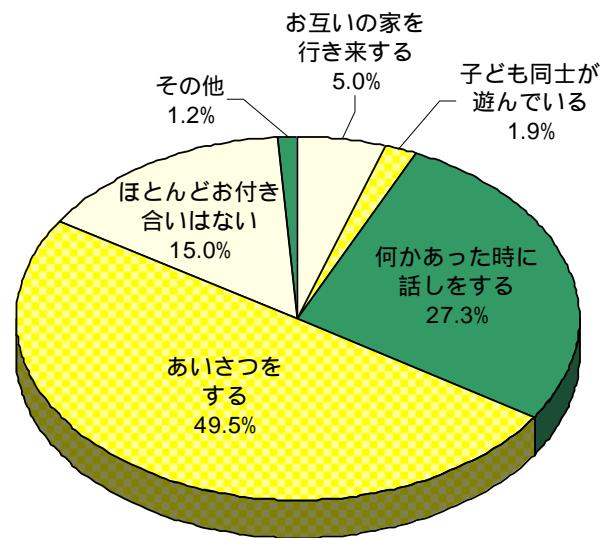


(複数回答)

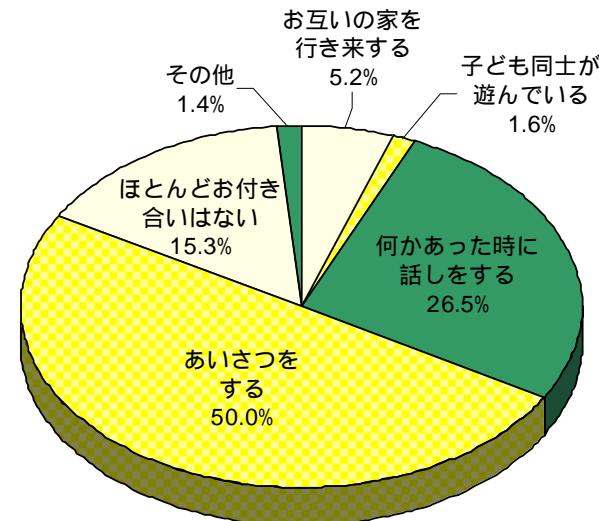
(複数回答)

隣近所とは、どのようなお付き合いをしているか

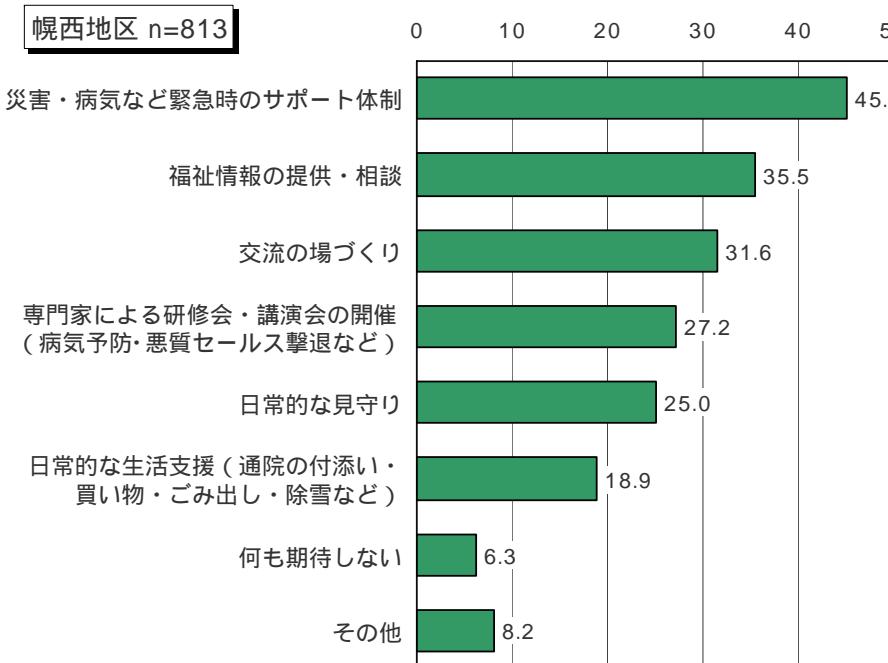
幌西地区 n=832



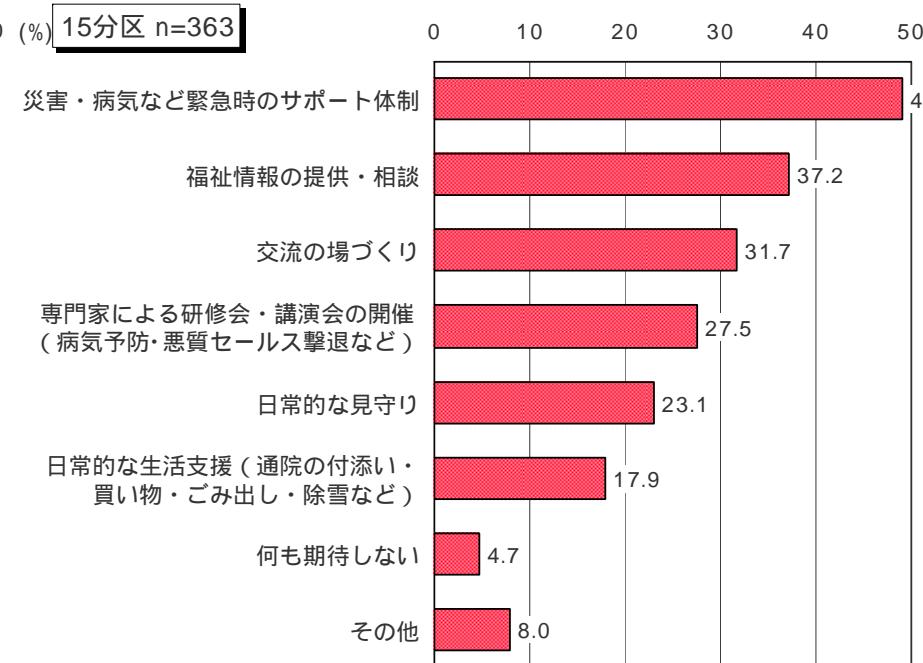
15分区 n=366



問8 ふれあいセンターにどのようなことを期待するか



(複数回答)



(複数回答)

住民報告会



報告会の意見より (旭山公園通・弥久茂、7分区)戸建地区

ふれあいセンターが知られていない

知られていない

- ・センターを知らないこと、知らない人の多さに驚き
- ・4年目でPRしているが、知られていないのが残念
- ・研修会や講演会の出席が少ないので、要望があるのはどう解釈すべきか？

その理由

- ・活動がわかりにくい
- ・一般の人はあまり関心がない
- ・行事参加者が少ないので、関心の低下か？
- ・回覧を見ていない

解決のヒント

- <PR方法>
- ・看板などがあったらいい
- ・センターには、色々なタイプの人がいるといい
- ・昔の「旭山会館」という方が知っている人が多いと思う
- ・地域の人に知つてもらう方法を考える

<参加できる環境づくり>

- ・気軽に参加できる環境づくりを
- ・色々な催しがあるが、もっと参加できる環境づくりを

(15分区)マンション地区

ふれあいセンターが知られていない

知られていない

- ・ふれあいセンターを知らない人が多いのにビックリ！
- ・開設4年目、PRに努めているが知名度が低い
- ・講演会や研修会の出席率が悪いのに、要望が多い

その理由

- ・活動が知られていない
- ・交通の便が悪い、遠い、レベル高い？
- ・知られてないから、行事への参加が少ない

解決のヒント

- <PR方法>
- ・もっと多くの人が場所を知るような工夫
- ・回覧板では見ていない、見られない人がいる
- ・行事案内は本人に渡す
- ・行事等は口コミで声をかける
- ・地域の担当者がもっと頑張らなくては

<参加できる環境づくり>

- ・「福祉」というイメージに限定されない
- ・町内に声をかけて顔見知りになるようにしている
- ・期待されているサポートは、どのようなものか？
- ・マンションの掲示板では見てもらえないで、しっかりしたリーダーがいればよい
- ・ニーズ（年齢別）にあわなければ人は集まらない

報告会の意見より
(旭山公園通・弥久茂、7分区)戸建地区

困り事・心配事

<除雪>

- ・除雪やゴミ問題は、やはり上位で、除雪は高年齢になるほど重要

<訪問販売>

- ・訪問販売や電話勧誘の数の多さ、困っている高齢者が多い
- ・70歳代80歳以上の訪問販売や電話セールス、訪問販売の手口が巧妙

<通学路・公園>

- ・通学路や公園などの安全性が心配
- ・公園や街路花壇の犬猫の放尿が多く、子ども達の遊び場や花への影響が心配

<災害>

- ・災害時のことの不安に思っている人が多く、驚いた

<ゴミ>

- ・ゴミの分別や収集にステーション近くの人達が困っている

(15分区)マンション地区

困り事・心配事

<除雪>

- ・除雪など冬の生活に不安があるお年寄りの姿が垣間見えた

・雪捨て場や道路、公園の安全性

<訪問販売>

- ・お年寄りは訪問販売やセールスで困っている人がたくさんいる ~ 思ったとおり
- ・80歳以上の人人が訪問販売や電話セールスに一番困っているとは意外

<介護>

- ・病気予防や介護サービスを心配している人が多いが、マンションの人が多いからか？

<通学路・公園>

- ・通学路等の安全性が高い

<災害>

- ・年代に関係なく心配している
- ・「災害時の助け合い」が多いのは、意外
- ・単町各部により一層の協力をお願いする

<その他>

- ・お年寄りサロンの人達の悩みとアンケート結果は、差がある気がした

報告会の意見より (旭山公園通・弥久茂、7分区)戸建地区

ボランティア・地域活動

- ・参加したいと思うが多く、幌西は捨てたものでない、希望がある
- ・ボランティアに参加したいと思っている人が意外に多いが、現実の参加は少ない
- ・福祉に关心を持ち、協力しようと思う人が増えつつあるので、どう引き込んでいくか。ボランティアの底辺を広げることが大事。
- ・20歳代、30歳代で「交流を広めたい」という人が多くいた

マンション

- ・マンションの人も地域に关心と願いを持っていることがわかり、心強い
- ・マンションが多くなり、ますます交流が少なくなる
- ・マンション居住者の福祉ニーズの高さ

役所から

- ・「福祉情報や相談事」は、もっと区役所を使って
- ・「介護保険やサービス」を、多くの人が心配していることがわかった

(15分区)マンション地区

ボランティア・地域活動

- ・「参加したい」が62%(15分区)はこれからの掘り起こしに期待できる
- ・「子育て」や「青少年育成」のボランティアが予想外にトップ!
- ・健康や文化に参加したい人が意外と多いのかな?
- ・地域活動が少なく、ちょっとビックリ!
- ・参加したい気持ちはあるのに、きっかけがない人が多くいること
- ・地区センターやまちづくりセンターで、ボランティア登録ができるようにしては、どうだろう

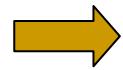
マンション

- ・マンション住民はほとんど顔が見えない

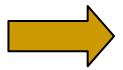
役所から

- ・区には福祉情報がどっさりあり提供しているが、皆なぜ知らないのだろうか

アンケート結果



報告会の意見



次の活動に展開



19年度活動項目

- ・広報部の立上げ
- ・ボランティア募集（広報編集、子育て、ウォーキング、すこやか俱楽部）
- ・防災福祉マップ作成

19年度活動方針

- ・センターの広報
- ・ボランティアのきっかけづくり
- ・一人暮らし高齢者の防災対策



成果ー地域住民が共同の事柄を自分達で決めることが できる兆し＝地域コミュニティ形成への道

